

平成17年度 研究の概要

1 研究主題

豊かな学びを育む学習活動の工夫

2 主題設定の理由

本校では、これまで「心の教育」に研究の重点を置き、体験活動との関連を図りながら、道徳の時間を充実させることによって「思いやりの心を育てる」ことを中心にして研究を進めてきた。

その成果として相手の立場を尊重する態度や姿勢が育ち、自ら考え判断して行動する姿が見られるようになってきた。

本年度はその成果を生かし、確かな学力の形成をめざして、子どもたちの授業のなかでの関わり、言い換えれば授業のなかで相手を尊重し思いやる関係作りを大切にしながら『豊かな学びを育む学習活動の工夫』に取り組みたい。

子どもたちが主人公となる未来社会は、高度な知識や文化、情報や対人サービスによって経済が形成される社会へと移行していることが予想される。製造業に携わる労働者の比率も激減するとみられている。子どもが社会人となる21世紀の社会は、知識が高度化し複雑化する社会であり、その知識も絶えず流動し、発展する社会である。

この社会変化に対応して求められるのは、創造的思考や、コミュニケーション能力、探求的な学びである。

学校においては、学びの量ではなく、質が問われているのであり、生涯にわたって学び続ける人間の育成が要請されている。

新しい学びは

座学の学びから 活動的な学びへ
個人的な学びから 協同的な学びへ
獲得し記憶し定着する学びから 探求しふり返し表現する学びへ

伝達し説明し評価する授業から 触発し交流し共有する授業

へと転換していかなければならない。

豊かな学びとは、子どもたちが対象と出会い、自分の力で考え、自己と出会うこと、また、表現し合い、他の人の考えや思いを感じ取り、互いに対話しながら共に学ぶことで育まれていくものとする。豊かな学びを育む豊かな対話は、まさに相手や対象を尊重し、謙虚に聴き合う関わりを創り出すことに他ならない。

そこでは、進んで学び始めるような、楽しく、価値ある活動が展開されなければならない。また、共に学び、互いのよさに気づき、認め合い高め合う学習を作っていくことが必要であろう。このような学習活動が、「豊かな学び」を育むと考え、本主題を設定した。

3 研究の進め方

- (1) 個人の研究テーマに基づいて研修を進める。
子どもの実態を考え、研究教科・領域、内容を決め、実践していく。
- (2) 全員が授業提示をし、授業研究会を行う。
- (3) 授業のなかで異学年との交流を積極的に行う。
- (4) 豊かな学びの創造につながる有効な手だては何かを模索し、それぞれが授業のなかで方法論を提示し、研究しあう。
- (5) 授業研究や日常の学習活動の実践において、子どもの変容をとらえ、学年研究としてまとめ、『研究のあゆみ』を発行する。

4 教師の授業力向上のために

- (1) 教師一人一人が課題をもって研究授業をする。
- (2) 研究主題に迫る授業とはどのようなものかについて、授業実践のなかで意見交換をし、理論の構築を図っていく。
- (3) 様々な機会をとらえ、『豊かな学び』の理解と研修に努める。

5 研究のあゆみ

月	校 内 研 修 内 容	
4	今年度の研究に向けて 研究主題および研究概要の決定 授業研究会のもち方について	
5	各教科等経営案の作成	個人テーマの決定 先進校視察（5月～3月）
6	道徳「学級における指導計画」作成	校内授業研究会
7	指導主事計画訪問	
8	個人研修	
9	全体研修会 研修報告会	評価研修会
10	全体研修会	前期の研修の振り返り
11		
12	「研究のあゆみ」の作成計画と分担	
1	全体研修会	特別支援等について ↓
2	「研究のあゆみ」の原稿執筆と校正	
3	全体研修会 今年度の研修の反省と来年度に向けて	

6 研究構想図

